

# 市民大行進宣言

79年前の8月9日午前11時2分、1発の原子爆弾が、長崎の青空に炸裂しました。一瞬にして、赤く染まった空の下、家や木々は燃え、数え切れない人々の笑顔、家族、希望、幸せを奪いました。放射線や熱線による後遺症は、人々の生命を奪い、差別をも生みました。今年、新たに追加された原爆死没者は3200名。悲しみの連鎖は途切れることはありません。

そんな状況の中で、来年は被爆80周年を迎えます。被爆者の高齢化により、死没者数の増加が一段落しようとしています。このことは、増え続けた原爆死没者数にも「終わり」が刻一刻と近づいていることを意味します。時間の流れを止めることは誰にもできません。もちろん、過去に戻ることも未来に進むことも誰にもできません。私たちは、過去に起きた出来事から学び、受け止め、平和な未来につなげる「今」を大切に過ごすしかないのでした。

私たち山里中学校は「平和は山里から 日常の平和から」を合言葉に、平和学習を行っています。今年度の2年生は「黒本から考える」平和学習でした。「被爆体験講話」から想像する非日常的な風景は、当時長崎市にいた24万人の人が見た「特別ではない」風景だったことが痛いほどわかりました。3年生は「原子力に関わる問題」を考える平和学習でした。長崎の原爆と福島の原子力発電はどうつながりがあるのか。このことを皮切りに、過去と現在のつながりを学びました。また、本校からは、いわき市派遣事業に4名の生徒が参加し、復興や再生の様子を見て、福島の「今」を全校生徒に報告してもらいました。これらに共通していたのは、やはり「日常の平和」の大切さでした。

私たちの学校には、平成30年度に制定された「山里中学校平和憲章」というものがあります。その中に「日常の平和から 私たちはいつも 私たちはあたりまえに 求めるものは 本当の笑顔」という一節があります。身近にいる人と笑って過ごせる「日常」を、当たり前にしたいという先輩からの「学び」を、もっと、もっと語り継いでいかなければならないと感じています。

だからこそ私たちは、「学びから行動へ」この言葉を胸に、平和を築いていきます。人類は、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、そして何より「日常」の大切さを学んできたはずなのに、今もなお世界中で争いが絶えません。ロシアによるウクライナへの侵攻、ガザ地区への空爆。最近では、イスラエルによるレバノンへの攻撃が始まり、戦火がより広がっているように思えるのです。これから生きる私たちは、「行動」しなければいけません。被爆者の高齢化が進み、原爆の実相を伝える役割のバトンを受け取る時がやってきます。そして、二度と原爆に代わる核兵器を使わせません。二度とあの悲しみを繰り返しません。1学期、広島県の中学校との平和学習交流を行って、お互いの思いを伝えあったように、私たち若者世代での絆を深めあうなどして、平和を守る責任を果たしていきます。

平和な世界は、願うものでなく、私たちの「行動」で築くもの。1人の力は小さくても、決して無力ではない、このことを胸に強く刻み、私たち平和都市「長崎」の市民として、平和な未来のために、自らできることを考え、「行動」していくことを、ここに宣言します。

令和6年(2024年) 10月26日  
長崎市立山里中学校生徒一同